

歩行型モアを利用したレモングラスの省力化栽培体系

レモングラスの省力化栽培マニュアルを作成

背景・目的

- レモングラスは、料理やハーブティーの材料等として需要が高い作物ですが、栽培面積を拡大するにあたり収穫作業に労力がかかることが負担となっています。
- 歩行型モアを利用した収穫方法を確立し、省力化栽培マニュアルを作成しました。

成果の内容

- 歩行型モアを利用して収穫を行う方法は、慣行の刈払機で収穫するより作業時間を約36%削減することができます（図1）。
- 歩行型モアでは、収穫物を片側に寄せられるため、集荷が容易になります（写真2）。
- 作成した省力化栽培マニュアルには、栽培暦や基礎的な栽培技術も掲載しており、これから新たにレモングラス栽培を始める方にも参考となる資料となっています（図2）。



写真1 歩行型モア 写真2 収穫の様子

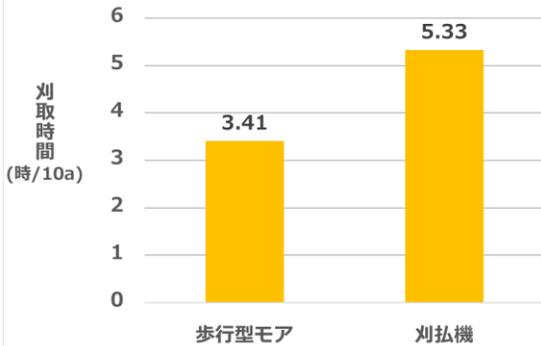


図1 刈払機との作業時間比較

令和7年3月作成
宮崎県総合農業試験場 薬草・地域作物センター

レモングラス栽培マニュアル

1 レモングラス (C.citrusus) の特徴

熱帯アジア原産のイネ科の多年草
主な香気成分として「シト랄」が含まれており、葉及び葉柄が料理やハーブティー、香料や精油の原料など幅広い分野で利用されている。
生育旺盛であり、栽培は比較的容易だが 寒さに弱い。

2 栽培暦

| 月 | 4月 | | | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | | 3月 | | |
|----|---------|---|---|----|---|---|--------|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|---|-----------|---|---|-----|---|---|-----|---|---|----|---|---|----|---|---|----|--|--|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | | | |
| 作業 | 堆肥・基肥散布 | | | | | | 株分け・定植 | | | | | | 収穫 | | | | | | 冬越し(株分け用) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

・堆肥 2t/10a、西土石灰100kg/10a (土壌分析結果により判断)
・基肥 N、P、K、Ca各10kg/10a
・定植 株分けした苗を15cm~20cm程度の長さにカットし地植えする(図2、図3)
・栽植密度 畝幅100cm 株間50cm (10aあたり2,000本)
・病害虫 病気はさび病、害虫はヨトウムシ、ハダニ、メイガ等がみられるが、発生頻度は少なく、収量に大きく影響しない

・収穫方法 歩行型モアを使用
株元から切断し、集荷する
刈払機による収穫と比較して作業時間を約36%削減できる(図4、図5、図6)
・収穫回数 年1回(8月~10月)
※台風による倒伏のリスクを避けるため、8月での収穫が理想

・冬越し 翌年定植する株分け用苗を確保するために越冬させる
一株から10~30本程度苗の確保が可能
①ほ場で越冬させる場合(図7) 8月までに収穫し、刈取り後新たに伸びた葉を採ったまま、12月に畝全体をトンネル被覆、最低地温で以上、最高地温30℃以内を維持する
②ハウス等で越冬させる場合(図8) 鉢上げし、最低気温5℃以上の環境を維持する

3 留意点

本マニュアルは、宮崎県小林野尻町で試験栽培したレモングラスの調査データを参考に作成したものである

図2 レモングラスの栽培マニュアル

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 省力化により栽培面積を拡大し、大量生産することができるようになるため、取引先が増えて生産者の所得向上につながります。

留意点

- マニュアルは、宮崎県小林野尻町で試験栽培したレモングラスの調査データを参考に作成したものです。

関連研究成果カード：2025年度整理番号27

関連事業名：県内産原料用ハーブ生産に向けた新たな栽培技術の開発事業(県単)

研究期間：2022~2024年度